令和８年度
行政視察報告

川俣町議会
厚生文教常任委員会

１　調査事項・方法

（１）　近畿大学附属広島高等学校・中学校東広島校を訪問し、近畿大学附属校としての特色や近畿大学との連携等について説明を受け調査を行った。

（２）　広島中央環境衛生組合（広島中央エコパーク）を訪問し、一般廃棄物処理施設の運営等について説明を受け調査を行った。

２　調査期日

令和８年８月４日（火）から６日（木）までの３日間

３　調査参加者

厚生文教常任委員会	４名
議会事務局	２名
町民税務課長	１名
計	７名

４　調査報告

（１）近畿大学附属広島高等学校・中学校東広島校

近畿大学附属校としての特色や近畿大学との連携等について

東広島市（人口199,000人）は広島県のほぼ中央に位置しており、広島市（人口１２０万人都市）の東側に隣接し広島市のベッドタウンとしての結びつきが強い都市で、県内でも人口の増加が続く数少ない市である。

また、東広島市内には全国的に有名な酒蔵が数多くあり、豊かな自然環境の中で、良質な水や気候により美味い酒が造られている。



校舎

（引用：近畿大学附属広島高等学校・
中学校東広島校ホームページ）

近畿大学と当町の関係は、東日本大震災発災後、近畿大学の総合力の強みを活かした様々な復興支援をしていただいてきた。現在もその

活動は続いており、当町の復旧復興への歩みは近畿大学と共に歩んでいると言っても過言ではない。

今回の研修については、当町にある県立川俣高校の全国公募開始により、町民の目が川俣高校に寄せられているなか、近大附属中・高一貫校がもたらす教育効果や少子化が急加速する現代社会における教育の現状・課題・解決策について、現場の声を聞きながら研修を行ってきた。

近大附属東広島校の生徒定員は中学校４２０名、高校６６０名で、ほぼ定員数を達し学校運営がされているが、そこには先生方の努力や近畿大学の矜持が伝わってきた。ただ単に私立学校の運営を円滑に行うためだけに生徒数を増やすのではなく、近大附属東広島校を選択して良かったという生徒を一人でも多く、世に出したいという思いである。また、生徒のやる気を引き出す特色として「附属特別推薦」という制度を設けるなど、授業料免除などが用意されている。さらには、高校進学から東広島校に入学してきた生徒と附属中の生徒は２学年の時に併せてクラス替えを行うことで、さらなる教育効果に繋げていくとのことであった。また、橋本校長、小玉企画広報部長代理らが東広島市内の小中学校、学習塾などに年間約３００回を数える訪問を行い、情報交換等を実施しているという説明からも、名門近畿大学附属校の凄まじいエネルギーを感じることが出来た。さらには、体験会などで熱心な教員スタッフと話をした親御さんが、我が子をぜひ東広島校に託してみたいという気持ちになるケースは多いのではないかと思った。まさに「人を育てるのは人である」と強く感じた次第である。

改めて東広島校ＨＰを閲覧したところ、高校生のアンケート結果で志望の動機が家族や塾講師等にすすめられたが約３割を占めるという記事が掲載されており、やはり関係者の努力の賜物であると感じた。また近年、近畿大学のレベルが上がっている事から、附属高校から入学させたいという親御さんも増えているとのことであった。

東広島校の教育指針のひとつである「地域社会と世界に触れる」では、オーストラリアブリスベンへの留学や、国内留学生との交流事業グローバルスタディーズにより、国際感覚を養う学習のほか、地元企業２社（もう１社増えるかも…）との連携事業、または地元自治会と協働で地域プロデュースを行うなど、様々な実践を通し課題解決に向けた活動を行い生徒に実務による成功体験をさせている。

最後に、東広島校は中学校・高校・大学とキャリア教育を進める上において、特に中学生に対して明確な将来へのビジョンを植え付けることが出来るとの説明を受けた。自分の努力次第で「附属特別推薦」により近畿大学の１６学部５０学科への推薦枠が確約されること、身近にいる憧れの先輩（高校生や大学生）という存在により明確かつ具

体的な進路への夢を描くことができることなど、進路という人生のターニングポイントにおける中・高一貫校システムが持つ役割は、大変大きいものがあると改めて知ることが出来た研修であった。




研修の様子

（２）広島中央環境衛生組合（広島中央エコパーク）

一般廃棄物処理施設の運営等について

伊達地方衛生処理組合のごみ焼却炉の建て替えに向けた視察として、東広島市、竹原市、大崎上島町の可燃ごみ等を広域処理する高効率ごみ発電施設と、東広島市、竹原市のし尿・浄化槽汚泥等を処理する汚泥再生処理センターが併設されている「広島中央エコパーク」の研修を行った。

令和３年に供用開始した本施設は山の頂上にあり、遠くからでも施設が見えるロケーションに建設されているため、遠方からも目視が出来、迷うことなく到着できた。



施設の外観

（引用：広島中央環境衛生組合、施設紹介、
広島中央エコパーク）

到着するや否や、施設の外部、内部とも清潔感が漂い、ごみ処理施設とは思うことが出来ない整然とした環境であった。また、研修当日は３５度を超える猛暑日であったが、ごみ処理施設特有の臭いもまったく感じられなかった。本当に処理施設なのかと目を疑うばかりであ

った。

本施設はガス化溶融炉型の焼却形式を採用し、焼却熱により蒸気タービンを回し自家発電を行っている。施設内の全ての電気を賄っており残りは売電しているとのこと。また、溶融物の資源化（スラグ、メタル）を行いアスファルトや建設機械のカウンターウエイトの材などに再利用されており、そこから販売収入を得ている。

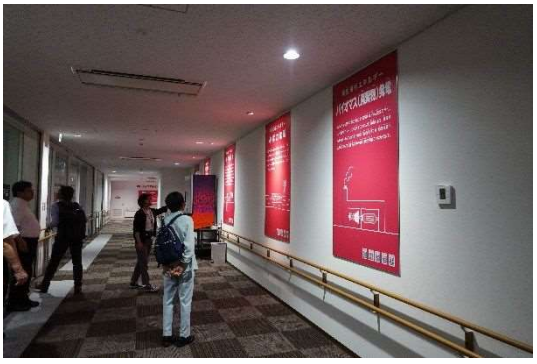


本施設はなぜ「最終処分量ゼロシステム」を採用しているのかであるが、それは管内に最終処分場を持つことが出来ないというお家事情があるとの説明を受けたのだが、処分場の確保の有無に関係なく環境への配慮・負荷を考えれば、どの自治体も「最終処分量ゼロシステム」を採用するべきなのではないかと思ってしまう。処分場の確保が出来ない故のシステムなのであろう。埋め立て場所があるのであれば、初期費用、ランニングコストを考えればとストーカー炉型を採用するのが至極当然なのだろう。

現に溶融炉型（最終処分量ゼロシステム）は全国でも１割程度の設置率との説明に、まさに現実問題を突き付けられた思いを抱いた。環境配慮への取り組み以前の問題として、費用の問題が最優先されるということである。

ごみ処理と環境問題という我々の生活に決して欠かすことの出来ない事を、理想と現実の狭間でどう折り合いをつけていけば良いのか、改めて考えさせられる研修であった。





研修の様子

令和８年度

行政視察報告

（委員毎）

川俣町議会

厚生文教常任委員

令和8年9月18日

川俣町議会議長　様

厚生文教常任委員会委員長　　蓮沼　洋志

令和8年　川俣町議会厚生文教常任委員会所管事務調査報告

1	研修名	厚生文教常任委員会所管事務調査
2	日時 調査地	令和8年8月5日（水） 調査先名　近畿大学附属広島高等学校・中学校東広島校
		令和8年8月5日（水） 調査先名　広島中央環境衛生組合(広島中央エコパーク)
3	参加者	7名（議員4名・所管課長1名・事務局2名）
4	研修内容及びまとめ（意見・感想）	①近畿大学附属校としての特色や近畿大学との連携等について 【内容】【まとめ】 今回の研修の目的は、当町にある県立川俣高校の全国公募開始により、1人でも多くの入校生を公募のできるか近大附属中高一貫校がもたらす教育効果や少子化が急加速する教育のの現状、課題解決策について、現場の声を聴き参考の一助になればと行なってきました。東広島市は、広島市のほぼ中央に位置し広島市の東側に隣接しベッドタウンとして県内でも人口の増加が続く数少ない市であります。近大附属中高一貫校の研修にあたっては、校長先生初め5人の先生方に対応して頂き学校概要説明大学附属校としての特色、大学との連携、中高一貫教育導入の目的教育の特色、生徒募集の取組工夫、校内施設見学、質疑応答、意見交換と温かく向かいて頂きました。近大附属東広島校は、国公立大学に70～80人、近畿大学には、150人程進学されているという事です。近畿大の見覚の精神は、実学教育と人格の投与を掲げており国際社会で信頼と尊敬を得る人材の育成を目指すとあります。近大工学部も隣設されており、中学の内から大学との交流もあり、高一からオープンキャンバスに参加したり講義では研究室を訪問する事ができ、中高大学が連携していて教育環境が整備されている事がわかります。又校長先生はじめ諸先生たちが東広島市内の小中学校、学習塾など年間300回程訪問し情報交換や学校のピーアールを実施していて、志望校の動機が家族や塾講師に勧められた生徒が3割という事からも関係者の努力の賜物と感じました。又、グローバルな人間形成を目指している近畿大の授業料免除制度があり英検一級取得者は、4年間授業料免除など、英検二級は入学金25万が免除されます。又オーストラリア留学も取り組まれております。又探究活動では、地域の協議会との連携、児童への学習支援など困り事や若者支援に一役買っております。地域の夏祭りでは近校オールスターズを結成して参加協力しています。又諸先生方は生徒たち

		に対して勉学や私生活の困り事に対してもいつも優しく気安く対応してくれているという事です。又通学に不便を感じる人には南北に３台の通学バスを運用して便宜を計っています。又、就職にも強い学校であり有名企業400社の就職者数を誇っています。特例的推薦枠が16学部50学科が用意されております。
4	研修内容及びまとめ（意見・感想）	②一般廃棄物処理施設(広島中央エコパーク)の運営等について 【内容】【まとめ】 伊達地方衛生処理組合のゴミ焼却炉の立て替えに向けた視察として、東広島市、竹原市、大崎上島町の可燃ゴミ等を広域処理する高効率ごみ発電施設と東広島市、竹原市のし尿、浄化槽汚泥等を処理する汚泥再生処理センターが併設されている「広島中央エコパーク」の研修を行った。 本施設はガス化溶融炉型の焼却形式を採用し燃焼熱により蒸気タービンを回し自家発電を行なっている。施設内の全ての電気を賄っており残りは売電している。溶融物の？資源化(スラグ、メタル)を行いアスファルトや建設機械のカウンターウエートの材などに再利用されております。この施設は、体験型環境学習の場として防災拠点としての機能を持ち2021年に開始している。自然と地域を融合した施設で災害時の対応にも取り組んでいて避難所や災害ごみの仮置き場、バイオマス発電による足湯もあり、年間5000人の小学生などが視察に来ておりわかりやすく説明できるシステムになっていて広い会議室があり、空調の効い見学コースになっている。ゴミ捨て最終処分0の施設である。総事業費　250億3500万円(2017－2021)

令和8年8月12日

川俣町議会議長　様

厚生文教常任委員会副委員長　　石河　ルイ

令和8年　川俣町議会厚生文教常任委員会所管事務調査報告

1	研修名	厚生文教常任委員会所管事務調査
2	日時 調査地	令和8年8月5日（水） 調査先名　近畿大学附属広島高等学校・中学校東広島校
		令和8年8月5日（水） 調査先名　広島中央環境衛生組合(広島中央エコパーク)
3	参加者	7名（議員4名・所管課長1名・事務局2名）
4	研修内容及び まとめ （意見・感想）	①近畿大学附属校としての特色や近畿大学との連携等について 【内容】 中高一貫校がもたらす教育効果や地域との関わりによる教育、効果、経済効果等近大の活動を研修し、今後の教育的課題を学ぶと言う目的で視察を行った。㊀近代の見学の精神は、実学教育と人格の投与を掲げている。社会で信頼され、活躍できる人材の育成を目標としている。創立100周年を迎えており、東広島市との連携により7番目の附属高校として独立3年後に中学を併設した。現在志願者は全国1位であり、ものづくりに生かせる探求的学習にも力を入れている。マグロの養殖など、経済効果も生み出している。生徒の意見を取り入れた。制服改革をし4色展開のウェアを着用している。またトイレは全部ウォシュレットにリニューアルするなど学校環境の改善にも取り組んでいる。大学の附属高校として連携した活動をしている。中学生から大学を見学したり、高一からオープンキャンパスに参加したり、講義では研究室を訪問することができる。部活動でも連携し強調し合い高め合っている。特に探求活動では、地域の協議会との関係、児童への学習支援やクリスマス会など身近な困り事や若者支援に一緒に解決すると言う活動をしている。地域の夏祭りでは、近高オールスターズを結成して参加している。商品開発では、パンやサツマイモ農家とのスムージー開発など行っている。ボランティアは年度最初に募集し、オリジナルTシャツを作って活動している。様々な特待制度があり学費を免除している。英検1級は4年間、授業料免除など、文系5,000,000円、理系6,000,000円英検2級では入学金250,000円が免除される。英語教育においてはグローバルスタディと言い、オースト

		ラリア留学などがとりくまれている。寮は設置しておらず、南北にスクールバスを走らせており、180人位利用し、月30,000円を徴収している。公共交通を利用して通学している。特例的推薦枠が医学部など16学部50学科あり。就職にも強い学校である有名企業400社の就職者数を増やした大学全国1位である。 【まとめ】 生徒の夢や親の期待に応えられる学校として注目を浴びている。高校進学は当たり前の中で、中高教育の質の向上へ、公立学校の生き残りをかけた新たな対策になるのか、この学校として特色づくりをどのように創造するかと言う課題の解決の糸口になればと考える。子供たちに求められている素質や、能力を育んでいくためには、同学年や異学年だけでなく、他校や地域の方々など幅広い年齢層の人々と交流したり活動したりすることが重要であり、積極的に進めていく必要がある。とりわけ中学生にとって高校生と交流活動する事は、将来への夢や希望の実現に向けた視野を広げることにつながると思う。

4	研修内容及びまとめ（意見・感想）	②一般廃棄物処理施設（広島中央エコパーク）の運営等について 【内容】 東広島市、竹原市、大崎上島町の可燃ゴミ等を広域処理する高効率、ゴミ発電施設とし尿浄化槽汚泥等処理する汚泥処理センターを併設した各施設の老朽化対策と効率的な行財政運営を目的に集約された最終処分料0を目指した。体験型環境学習の場、防災拠点としての機能を持つ。2021年開始している（計画は2017年より）4つの理念を持ち快適に暮らせる街として取り組んでいる。視察に来る方が多く、年間5000人近くで小学生にもわかりやすく説明できるシステムとなっている。広い会議室、空調の効いた見学ルートで安心してみて回ることができる。 【まとめ】 自然と地域を融合した施設で災害時の対応にも取り組んでいて、避難所や災害ゴミの仮置き場、バイオマス発電による足湯もあり、ゴミ焼却時に発生したエネルギーで、蒸気発電6500キロワットの内半分を利用し、半分を売電している。ガス化溶融炉から出たメタルと砂は再利用されている。ゴミすて最終処分0の施設である。今後老朽化した施設の改善や新築においても参考になると考える。

令和8年8月27日

川俣町議会議長　様

厚生文教常任委員　　藤原　正

令和8年　川俣町議会厚生文教常任委員会所管事務調査報告

1	研修名	厚生文教常任委員会所管事務調査
2	日時 調査地	令和8年8月5日（水） 調査先名　近畿大学附属広島高等学校・中学校東広島校
		令和8年8月5日（水） 調査先名　広島中央環境衛生組合(広島中央エコパーク)
3	参加者	7名（議員4名・所管課長1名・事務局2名）
4	研修内容及びまとめ（意見・感想）	①近畿大学附属校としての特色や近畿大学との連携等について 【内容】 高校の概要説明の後、テーマ①大学附属校としての特色・大学との連携。②中高一貫教育導入の目的・教育の特色。③生徒募集の取組・工夫。について説明がありのちに質疑応答・意見交換。その後校内施設を見学し終了となる。 【まとめ】 近畿大学附属東広島高校は同じ広島県内にある附属福山高校東広島校舎として平成８年４月に開校。その後独立して近畿大学工学部と併設となり平成11年に校名を東広島高校に変更し同時に中学校を開校。平成25年に現校名に変更となる。テーマ①に関しては校訓としての「人に愛される　信頼される　尊敬される人になろう」を基にした人材教育と併設の大学工学部と連携した授業プログラム、国公立大学との併願制度などを設けている。②に関しては高校の内容を先取りするなど中高一貫教育の利点を活かしたカリキュラムで特に英語数学に重点を置いてるようである。さらに部活動や課外活動への積極的な参加を促したり、家庭との連携を密にするなど問題解決にも迅速に対応しているようだ。③の生徒募集に関しては教員が地域の塾や中学校の訪問、イベントに参加する他、入試を前後期2回実施するなど児童生徒の強みを活かせる入試制度を実施している。以上について参考となる事案と考える

4	研修内容及びまとめ（意見・感想）	②一般廃棄物処理施設(広島中央エコパーク)の運営等について 【内容】 施設の概要として広島中央環境衛生組合の成り立ちと施設、事業内容などについて説明をうけた後、施設に関するDVDを視聴し施設内を見学。その後質疑応答があり終了となる。 【まとめ】 広島中央環境衛生組合は東広島市、竹原市、大崎上島町の2市1町で構成された一部事務組合である。管内人口は令和7年3月現在で約22万人で主な事業はゴミ焼却とし尿処理となる。管内には7つの処理施設があったが老朽化に伴い効率的な行財政運営をしていく目的で現在は3施設に集約された。その中でゴミとし尿処理を併設した施設として建設されたのが広島中央エコパークである。目的としてはこれまで埋め立て処理されていた残渣を溶融によりスラグ・メタルに再資源化するなどいわゆる資源循環に取り組みながら最終処分量ゼロを目指す拠点として計画された。また地域貢献としては親子を対象とした体験型環境学習や防災拠点としての役割など地域住民との理解醸成を図りながらの取り組みなど参考となった。

令和8年9月18日

川俣町議会議長　様

厚生文教常任委員　　高橋　道也

令和8年　川俣町議会厚生文教常任委員会所管事務調査報告

1	研修名	厚生文教常任委員会所管事務調査
2	日時 調査地	令和8年8月5日（水） 調査先名　近畿大学附属広島高等学校・中学校東広島校
		令和8年8月5日（水） 調査先名　広島中央環境衛生組合(広島中央エコパーク)
3	参加者	7名（議員4名・所管課長1名・事務局2名）
4	研修内容 及び まとめ （意見・ 感想）	①近畿大学附属校としての特色や近畿大学との連携等について 【内容】【まとめ】 近畿大学と本町は震災発災後、包括連携協定のもと連携・協働により様々な復興支援を行っていただいております。なかでも「かわまたの復興の花」と冠したアンスリウムの栽培支援については今や日本一の生産地として市場からも注目されている取り組みであります。 さて、その近畿大学の附属高校・中学校を訪れて一番に感じたことは中学生時代から自分の将来ビジョンを鮮明に描ける環境にあるという事です。同じ校舎に高校生がいて、また敷地内には近大工学部のキャンパスが併設されていることから、大学生とも交流ができるという「憧れの先輩」の存在を中学生が感じることで、より具体的な将来への展望を捉えることができるのではと感じました。漠然と授業を受けるだけの学生生活ではなく、高校生や大学生の先輩方から刺激を受けながら、自分を見つめることが出来る環境こそがこの学校の強みではないかと思いました。実際に高校・大学との交流も積極的に行っていると聞きました。本町も町内にある県立川俣高校の魅力向上に取り組んでおりますが、川俣中学校を川俣高校の附属校とイメージしながら取り組んでいくというのも重要な視点ではないかと思います。

4	研修内容及びまとめ（意見・感想）	②一般廃棄物処理施設（広島中央エコパーク）の運営等について 【内容】【まとめ】 広島中央エコパークに到着して、まず外観からしてゴミ処理場とは思えない近代的な建物で、視察当日は３０℃を超える気温にもかかわらず、あの独特の臭いも一切感じませんでした。中に入ると立派な吹き抜けのホールがあり、本当にここはゴミ処理場なのかと目を疑うばかりでした。この施設は全てにおいてリサイクルをおこなうゼロエミッションの考えで運営しており、この溶融炉型の施設は全国にも１割程度しかないと伺いました。年１回開催するエコパークフェアや常時見学可能ということで4,000名/年を超える来場者を数えるとの事でした。当日は夏休み期間中ということもあり、家族連れが訪れていました。前述のとおり排出するガスに至るまで燃焼させ水を温めタービンを回し自家発電する施設なので、最後には何も残らない仕組みになっておりますが、そこにはコストがかかります。大変環境に良い高効率のシステムではあるものの、普及率が全国でも１割程度というのはとても残念に思いました。しかし、経済活動をおこなっていく以上は、コスト削減という意識を捨てる訳には行きません。とても悩ましい問題であると改めて認識をさせられました。